

鳴海康平

さん

劇団「第七劇場」代表・演出家

津市長

前葉泰幸

## 劇場は違う価値観と出会う場所

平成29年1月25日、劇団「第七劇場」代表で演出家の鳴海康平さんをお迎えし、美里にある劇場「テアトル・ドウ・ベルヴィル」での活動や、津市における文化創造について前葉泰幸市長がお話を伺いました。

撮影/松原豊

場所/テアトル・ドウ・ベルヴィル

市長 今回の対談は美里にある劇場「テアトル・ドウ・ベルヴィル」の舞台をお借りしています。写真の撮影は美里在住の写真家・松原豊さんにお願しました。さて、劇場名「テアトル・ドウ・ベルヴィル」はフランス語ですよ。

鳴海 テアトルは「劇場」、ドウというのが「の」英語で言う「of」という意味。ベルヴィルが「美しい里・美しい街」という意味ですから、直訳すると「美里の劇場」。

市長 美しい村、美しい街、美里ですね。

鳴海 ヨーロッパの劇場では地域の名前を付けることが多いので、美里の劇場「テアトル・ドウ・ベルヴィル」という名前を付けました。

市長 以前は、倉庫だったのですか。

鳴海 資材倉庫だったところを、文化活動に理解のあるオーナーが貸してくださっています。紹介してくださった方々と資材を整理して、地域の方々にも壁の色塗りや、床張りなどの作業を手伝っていただいて作り上げた劇場です。

市長 白と黒の空間がすっきりしていて良いですね。ぐるっと見回すと視野に入ってくるのはほとんどが舞台で、客席は大変コンパクトにでき

ています。

鳴海 やはり、お客さんにぜひいたくな環境で舞台を体験していただきたいという思いがあります。客席と舞台が近いので、間近で演技を見ることができる。これぐらい舞台のサイズがあると、他のホールや海外で公演するときにも作品のサイズを調整しなくてもいいんですよ。

市長 2014年、作品を鑑賞した時に感じたのは、舞台に奥行きがあるとダイナミックに見えることです。例えば役者さんが、舞台の斜め一番奥から手前まで動いたときでも、テレビ画面などで見ると横の動きになりますが、奥行きが

